

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第38集

# 井 通 遺 跡 III

浜松市北区

平成24年度二級河川井伊谷川緊急総合治水対策(河川)事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2013

静岡県埋蔵文化財センター

## 序

静岡県埋蔵文化財センター調査報告第38集として「井通遺跡Ⅲ」をここに刊行します。井通遺跡は静岡県浜松市北区細江町に所在し、古代の引佐郡家閔連遺跡として考古学史上著名な遺跡です。今回の調査では、遺跡の北限を確認することができました。本書が研究者のみならず、県民の皆様に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを願います。最後になりましたが、本発掘調査にあたり、静岡県浜松土木事務所ほか、各関係機関の御援助、御理解をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2013年3月

静岡県埋蔵文化財センター所長

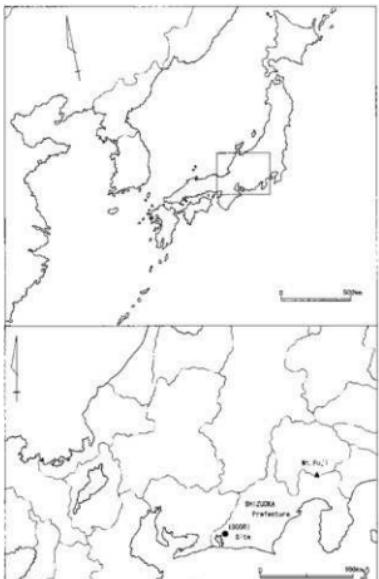
勝田順也

## 例　　言

- 1 本書は、静岡県浜松市北区細江町<sup>いとうまち</sup>に所在する井通遺跡<sup>いとういせき</sup>の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、平成24年度二級河川井伊谷川緊急総合治水対策(河川)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、静岡県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 現地調査は平成24年11月、資料整理は平成24年12月～平成25年1月に実施した。
- 4 調査体制は、以下のとおりである。

所　長	勝田順也	次長兼秘書課長	八木利済
調査課長	中鉢賢治	主幹兼事業係長	前田雅人
秘書係長	瀧 みやこ	調査第一係長	富樫孝志
第一係主査	丸杉後一郎		
- 5 本書の執筆は、丸杉後一郎が行った。
- 6 本書の編集は、静岡県埋蔵文化財センターが行った。
- 7 外部委託については、下記のとおりである。

掘削等業務委託	株式会社細江中村組
遺跡測量等業務委託	株式会社フジヤマ
整理作業業務委託	株式会社パソナ
- 8 発掘調査資料は、静岡県埋蔵文化財センターが保管している。



## 目　　次

第1章　調査経緯	1
第2章　遺跡の環境	2
第3章　調査成果	3
第4章　結　語	4
図　版	
報告書抄録	

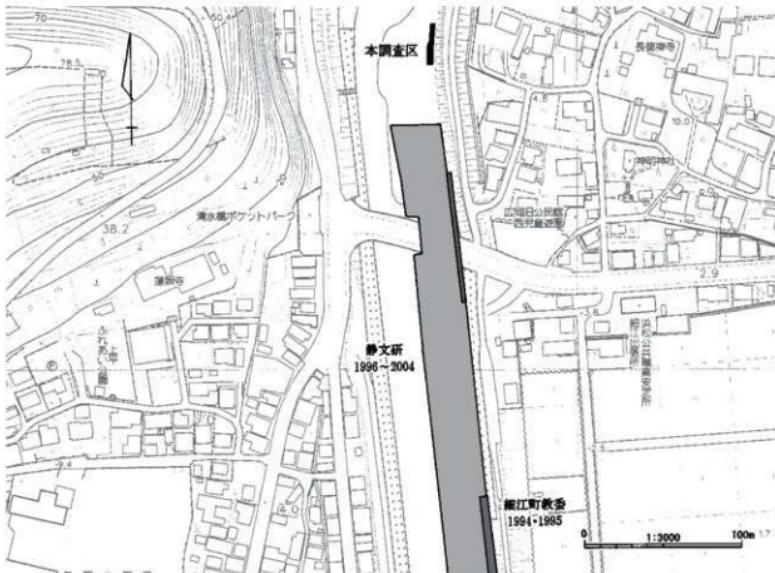
# 第1章 調査経緯

**試掘調査** 井通遺跡は、静岡県西部の浜名湖北東岸・浜松市北区細江町に所在する遺跡である。

遺跡の西側を流れる井伊谷川においては、これまで静岡県浜松土木事務所が実施した広域河川改修事業により、都田川との合流点～神宮寺川合流点付近までは治水安定度が確保されるにいたっている。しかし、国道362号線清水橋上流付近では河床土砂堆積により河積が減少しており、河川の流下が阻害されている状況であった。この箇所は国道362号線と一般県道320号引佐館山寺線が交差しており、交通が遮断された際は社会的影響が大きいことから早急な治水対策が迫られていた。

井通遺跡は1996～2004年にかけて大規模な現地調査を実施しており、その成果から工事予定範囲内には中世の旧井伊谷川の存在が推測された。しかし、遺跡北側の厳密な範囲や遺構の残存状況は不明確であり、井伊谷川西岸では遺跡の存否も判然としていなかった。そのため、浜松土木事務所と静岡県教育委員会文化財保護課は、河川改修工事の計画をもとに遺跡の取り扱いを協議し、工事に先立ち試掘調査を実施し、遺構の残存状況を確認することとした。試掘調査は2010年3月に行い、井伊谷川東岸において部分的に中世の遺物包含層を確認した。一方、井伊谷川西岸においては遺物包含層・遺構ともに検出できず、調査対象地から除外されることとなった。

**本発掘調査** 試掘調査の結果をふまえ、井伊谷川東岸で遺物包含層が確認された箇所の周辺については、記録保存を目的とした本発掘調査を静岡県埋蔵文化財センターが行うこととなった。現地調査は2012年11月に実施した。調査面積は40m<sup>2</sup>である。



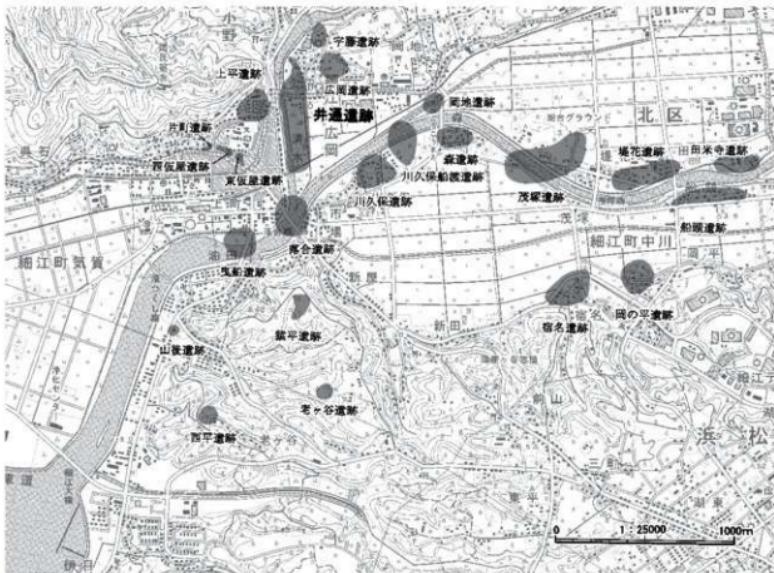
第1図 調査位置

## 第2章 遺跡の環境

**地理的環境** 井通遺跡が所在する浜松市北区細江町は、2007年4月に浜松市が政令指定都市に移行したことにより、旧浜松市北部地域と旧引佐郡3町で編成された行政区の中心的地域である。浜松市北区は浜名湖北岸水系としてまとまりがあり、都田川は浜名湖に注ぐ河川において最大の規模である。都田川は中川地区の平野部と都田地区的盆地、都田川の支流・井伊谷川は井伊谷地区的盆地を形成している。井通遺跡は西側に井伊谷川、南側に都田川と井伊谷川が合流しており、この付近を近世本坂道(姫街道)が通過している。遺跡南端は天竜浜名湖鉄道(旧国鉄二俣線)・北端は国道362号線や現在は廃線となつたが遠州鉄道奥山線が通過しており、水陸交通の要衝に遺跡は立地している。

**歴史的環境** 「和名類聚抄」によると井通遺跡周辺は古代において遠江国引佐郡に含まれ、引佐郡は京田・刑部・渭伊・伊福郷で構成されていた。京田郷は都田地区、刑部郷は中川地区、渭伊郷は井伊谷地区と各郷は河川が形成した沖積地ごとに比定できる。井通遺跡は奈良時代の運河・倉庫群が検出され、「引佐」と記載された多量の墨書土器・陶硯類・度量衡資料が出土したことから、引佐郡家連施設として港湾機能を備えた郡津であることが判明している。その要因として各郷を往来する際に都田川・井伊谷川を利用した水運の結節点に立地していることは看過できない。

井通遺跡が位置する中川地区は、縄文時代以来数多くの遺跡が展開するが、今回の調査と同時期の中世の遺跡では川久保船渡遺跡と祝田遺跡がある。この地域には伊勢神宮の御厨として『神鳳鈔』に祝田御厨・刑部御厨がみられるが、これまでの考古学的成果から実像に迫ることは難しい。



第2図 周辺集落遺跡分布図

## 第3章 調査成果

**基本層位** 調査区全面には厚さ10～30cm程度の表土(1層)が覆い、一部で築堤盛土(2層)が認められる。表土の下には、試掘調査において遺物包含層と確認された茶褐色粘質土(3層)がある。3層は調査区北側に部分的に認められるのみで、殆どは表土直下で河川堆積層が検出される。河川堆積層4～6層は粗砂を主体としている。前回の調査成果から、これらの層は氾濫・浸食・流路形成を繰り返す大規模な自然流路・SR1001に起因するものと同一であると判断できる(静文研2007)。

前回調査では、河川堆積層を掘削して中世の遺構群が検出されていることから、遺構検出は河川堆積層直上で実施した。

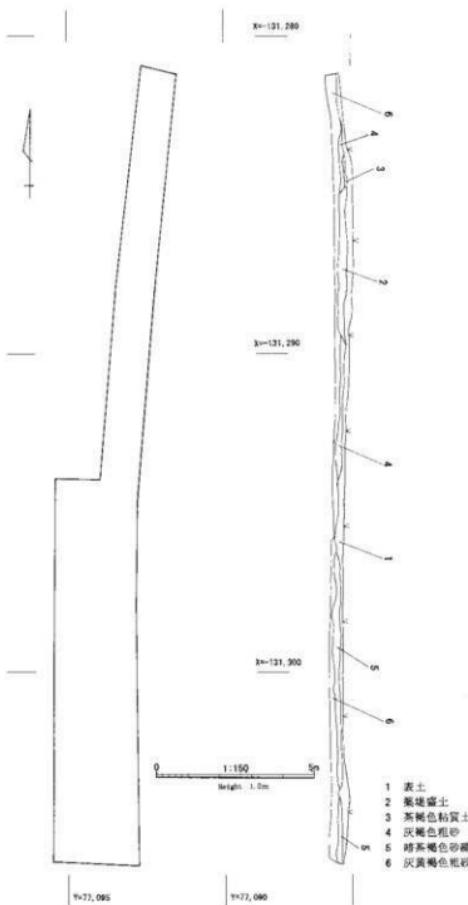
なお、都田川中・下流域における中世の中心的な堆積層は黄褐色砂質土と捉えられているが、調査では確認されていない。

**検出遺構** 今回の調査では、河川堆積層上に遺構は検出されなかった。

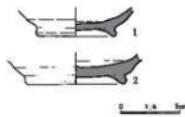
河川堆積層は全域にわたっており、自然流路の東岸に相当する範囲は調査対象地内では確認できなかった。検出された河川堆積層は、前回の調査で確認された大規模な自然流路・SR1001と同一であることが明確なため、上部を掘り下げたのみで完掘には及んでいない。遺物は河川堆積層より出土した。

前回の調査成果とあわせて勘案すると、自然流路は13世紀前半頃には完全に埋没したものと判断できる。

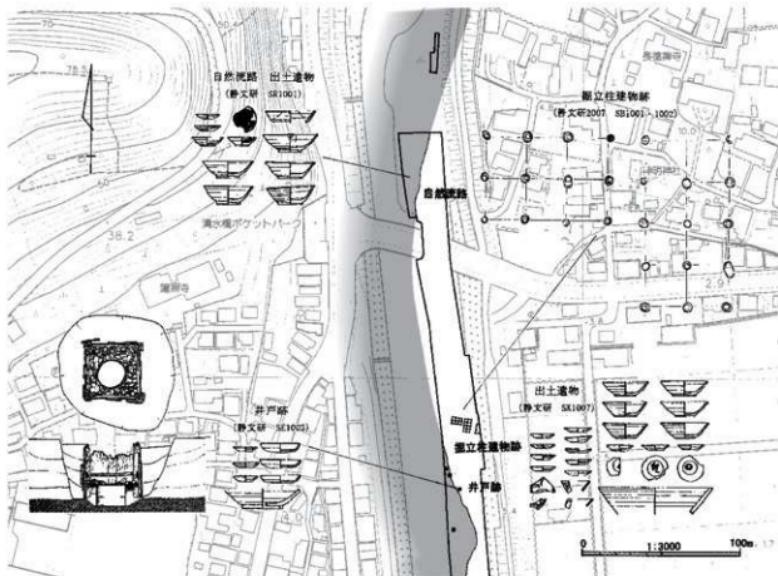
**出土遺物** 第4図に今回の調査で出土した遺物を示す。1は山茶碗・小碗、2は山茶碗・碗である。いずれも渥美・湖西系の山茶碗である。



第3図 調査区全体図



第4図 出土遺物



第5図 中世の集落景観

## 第4章 結語

今回の調査で、中世の井通遺跡北側は自然流路が存在し、流路埋没後は人為的活動の痕跡が低調であったことが明確になった。また、井通遺跡の機能的中心となる古代の郡家関連施設に関連する考古資料は得られなかつた。井通遺跡東側には緩やかな丘陵が東西に延びており、広岡遺跡や宇藤遺跡などが存在していることから、今後はこれら丘陵上に営まれた遺跡群の調査にかかる期待は大きい。

都田川・井伊谷川周辺の遺跡群は、特に弥生時代以降より集落遺跡が良好な状態で埋没している。今後の継続的な調査により、小地域ごとの集落変遷を復元できる可能性は高い。今回の調査面積は限定的であったが、断片的な資料を丁寧に紡ぎ合わせて地域史を構築していく過程においては、その意義は大きいといえる。

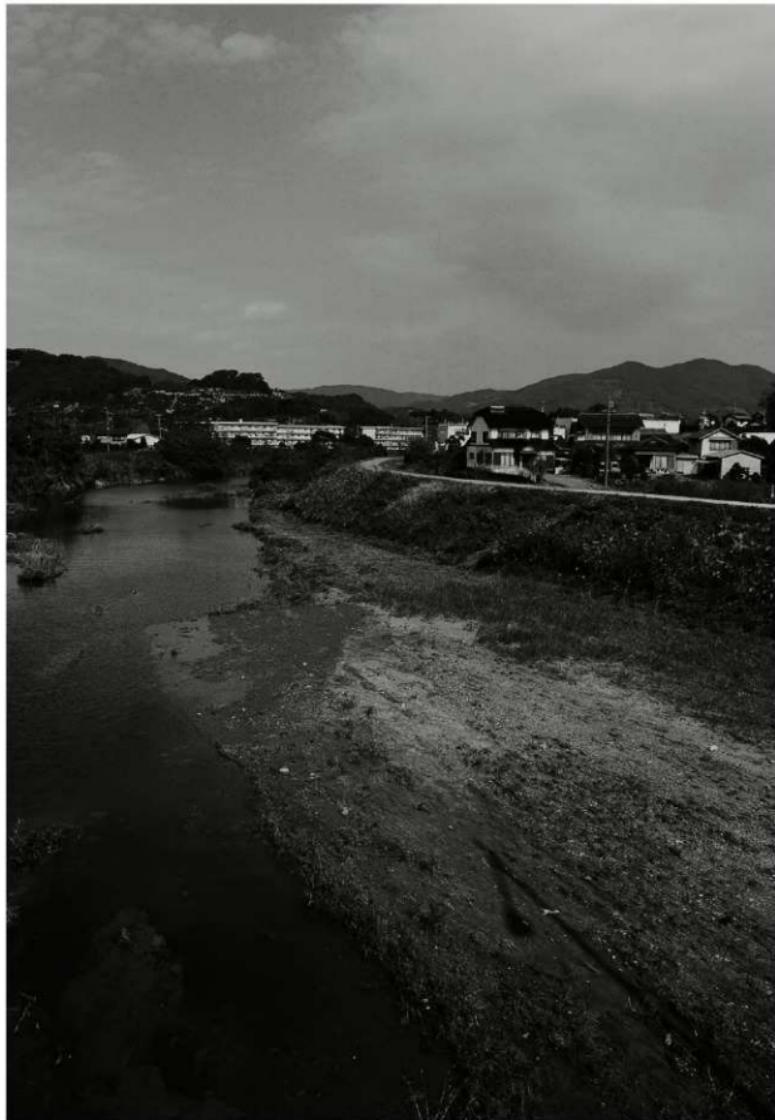
### 【参考文献】

- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 2007 「井通遺跡」  
静岡県埋蔵文化財調査研究所 2008 「井通遺跡Ⅱ」

### 【図出典】

- 第1・5図：浜松市「都市計画図」に加筆・編集  
第2図：国土地理院「1:25,000地形図」気質原に加筆・編集

図版 1



調査地区遠景（南西から）



1 調査前全景（南から）



2 調査地区全景（南から）

## 報告書抄録

ふりがな 書名	いどおりいせき 3 井通遺跡Ⅲ						
副書名	平成 24 年度二級河川井伊谷川緊急総合治水対策（河川）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告						
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財センター調査報告						
シリーズ番号	第 38 集						
編著者名	丸杉俊一郎						
編集機関	静岡県埋蔵文化財センター						
所在地	〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23番20号 TEL 054-262-4261(代)						
発行年月日	2013年3月15日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
	市町村 遺跡番号						
いどおり 井通遺跡	しづかにけん 静岡県 はままつし 浜松市北区 ひたちまちのなかく 細江町広岡	22135	34° 48' 36"	137° 39' 27"	2012.11.05 ~ 2012.11.15	40m <sup>2</sup>	記録保存調査 (河川改修)
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
井通遺跡	集落	鎌倉時代	自然流路		山茶碗		
要 約	井通遺跡は浜名湖北東岸に位置する弥生時代中期～中世にわたり集落が営まれた複合集落遺跡である。水陸交通の結節点に立地することから、奈良時代に引佐郡家間連施設として郡津が展開していた。 今回の調査では中世の自然流路が確認され、遺跡の北側では自然環境の影響により人為的活動の痕跡が低調であったことが判明した。						

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第 38 集

### 井通遺跡Ⅲ

平成 24 年度二級河川井伊谷川緊急総合治水対策  
(河川) 事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 25 年 3 月 15 日発行

編集・発行 静岡県埋蔵文化財センター  
 〒 422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田 23-20  
 TEL 054-262-4261(代)  
 FAX 054-262-4266

印 刷 所 株式会社 三創  
 静岡県静岡市駿河区中村町 166-1  
 TEL 054-282-4031